

※1950年代の卒業アルバムを探しています。寄付して頂ければ幸いです。



行会隆
佐伯城同窓会
会長
編委員会
広報委員会
(有)岡沢印刷



馬場の松

今年の夏は「安保法案」に沸き、マスコミは連日のように反対運動を報道した。中でも注目は、学生が自ら立ち上がり、主体的に抗議行動を起こしたことである。あの様子を見て、70年安保や中で学生が行動を起こし、その渦は、高校生は、自分だけではない。▼当時は、日本だろう。頭で創造して運営する」という自己立した精神が、多くの場面に溢れていた▼母校の校訓は「自治」で始まる。入学してまもなく、生徒総会で上級生が侃々諤々と執行部に物申す姿に驚き、入部した新聞部で、先輩が高い視点から考察し、生徒会を批判しながらも応援している心根に驚いた。中学を卒業したばかりの自分にとつて、高校生は「自治」の精神に満ちた大人の存在であり、憧れであつた▼歳月は流れ、若者は「三無主義」「四無主義」と揶揄され、「指示待ち」と嘆かれたが、この学生運動を見る時、「自治」の精神は失われずにいた。高25期生は昨年還暦を迎えた。旅行」を自分達で企画し、京都に行く準備を進めていた。岩切義和(高25回生)は、旅行を記念して失われた「修学旅行」を自分達で企画し、今秋学園祭の「自治」の精神は老年になつても脈々と流れている。

百周年で頂いた募金はこんな使い方をしています

平成26年度 鶴城振興基金決算書

収入の部

(単位 円)

科 目	当 初 予 算 額	収 入 済 額	増 ・ 減	備 考
繰 越 金	36,126,571	36,126,571	0	前年度繰越金
繰 入 金	0	0	0	該当なし
寄 付 金	1,000,000	1,005,000	5,000	寄付金2件
雑 収 入	8,429	5,650	△2,779	預金利息
合 計	37,135,000	37,137,221	2,221	

支出の部

(単位 円)

科 目	当 初 予 算 額	補 正 額	補正後予算額	支 出 済 額	予 算 残 額	備 考
大学訪問等補助	300,000	50,000	350,000	342,660	7,340	九州大学オープンキャンパス代補助
オープンキャンパス補助	250,000	0	250,000	216,060	33,940	東京大学オープンキャンパスセミナー参加補助
センタープレ補助	80,000	21,000	101,000	101,000	0	センタープレ模試会場費、交通費補助
英語検定補助	150,000	0	150,000	104,000	46,000	英検合格者へ受験料補助
数学オリンピック予選	20,000	0	20,000	0	20,000	
難関大学添削指導	600,000	9,400	609,400	609,400	0	Z会添削指導費
休日自主登校補助	300,000	0	300,000	299,000	1,000	週休日等学校開放へ補助
グローバル化事業補助	1,000,000	0	1,000,000	1,000,000	0	英國語学研修生徒派遣補助
特別活動補助	600,000	0	600,000	525,875	74,125	野球部・吹奏楽部備品購入補助
部活動奨励金	250,000	0	250,000	155,000	95,000	九州・全国大会出場祝金
スクールカウンセラー補助	60,000	0	60,000	39,597	20,403	2月・3月スクールカウンセラー雇用
予 備 費	125,000	△80,400	44,600	0	44,600	
基 金	33,400,000	0	33,400,000	0	33,400,000	
合 計	37,135,000	0	37,135,000	3,392,592	33,742,408	

※会費三千円を含む一般会計は、同窓会のホームページをご覧下さい。

37,137,221 - 3,392,592 = 33,744,629

収入済額

支出済額

次年度繰越金

会費振込先

ゆうちょ銀行 佐伯鶴城同窓会 01740-6-47995
住所 〒876-0848 佐伯市城下東町7-1

「最近の母校のことを知り、同窓生であることを身近に感じるこの会に来られてよかったです。」との嬉しい声もあり、又ビデオで観ることができました。「必要な経費を同窓会の皆様のご尽力で集めることができます。」との嬉しい声もあり、又吹奏楽部の全国大会での演奏をビデオで観ることができました。

3年目になる「会長と語る会」(今年度より名称変更、同窓会、どうしようかい?)は、前回までの年代別から職場別に持つことになりました。初回は佐伯市役所に勤務するみなさんです。以前、母校のPTA役員だった方や、今年度入ったばかりのピカピカ公務員の方も来てくれました。

「同窓会、どうしようかい?」
今年は職場別で(1/2)



生徒たちもこんな素晴らしい演奏ができたことを、一同を代表してお礼申し上げます。」と山崎兼雄事務局長からあいさつがありました。

「自分たちに何ができるか、明日から模索していくことは、佐伯市を良くしていくことだから!!」の言葉に元気を頂き、最後は定番の校歌の大合唱。4番まで勢よく歌い上げました。

秋の夜に校歌の大合唱



2015 IWAS 水泳ソチ大会に出場



2年生
保田星願
せいがん

水泳

2015 IWAS
ソチ大会に出場

第58期大分合同本因坊戦三番勝負において、初の本因坊となることが出来ました。高校生の大会では何度も優勝することが出来ましたが、8連覇中の金本因坊に勝てたのは、自分のスタイルを貫き最期まで粘れたからだと思います。今後ますます精進していきます。



2年生
宮脇雄太 6段

団 基

本因坊戦で優勝

在校生も全国区で活躍

るパワーとスタミナを身につけ、東京パラリンピックで表彰台に立てるよう頑張ります。

この全国大会が決まってから、同窓会の皆様をはじめとする多くの方々がご支援下さり、自分たちを支えてくれる廻りの方の力の大きさを改めて実感することが出来ました。

部員一同心より感謝しております。ありがとうございました。

吹奏楽部部長 3年 河室早紀

吹奏楽
全国高等学校総合文化祭に出場

私たち吹奏楽部は、8月1日に滋賀県で行われた全国高等学校総合文化祭吹奏楽部門に大分県の12分間はあつという間でした。この遠征で新たに目標・課題が見つかりました。その課題であ

はでは、初の国際大会で慣れな

いこともありました。記録を更新できて良かったです。この遠征で新たに目標・課題が見つかりました。その課題であ



熊本国税局

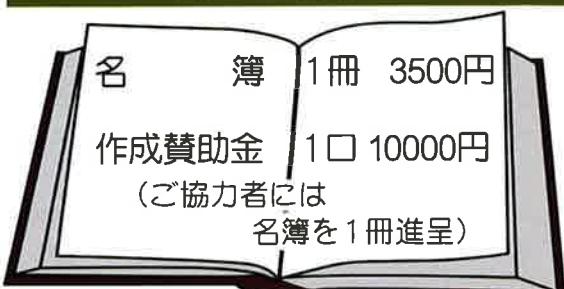
渡邊 定義
(高26回生)

私は、この七月から、大分・宮崎・鹿児島・熊本の四県を管轄する「熊本国税局長」として勤務しています。管内は、北は大分・国東半島から、南は沖縄県の手前、与論島まで約三万平方キロメートルに渡つて

真帆片帆

同時に責任の重大さで身が引き締まる思いでいます。

とができるのと同じことだ

会員名簿発行と購入のお願い
—創立105周年版—

詩趣豊かなる



特に、「税務」というものは、国の根幹をなす重要な仕事ですが、今回、各県や関係機関にご挨拶にお伺いするたびに、この仕事は、税務署や税務職員だけではなく、地方公共団体はもとより、税理士は、税務署や税務職員だけではなく、お世話になつていていた。

難さを実感したのは、先日、佐伯市を表敬訪問した際、多くの同級生が市の主要幹部として活躍しておられ、国としても種々久しぶりの再会と今後の活躍を誓い合い別れましたが、

また、私自身は、佐伯市蒲江楠本浦出身で、鶴城高校を昭和四九年に卒業しましたが、大学時代は京都市で過ごし、国税局・国税庁に就職後は、ほとんどを東京都内で勤務しました。今回、初めての地方勤務として故郷を管轄する国税局で働くことで、いだくことになり、嬉しさと

それぞれの道は違つても、同じ鶴城で育てられた「自治と信愛の精神」で通じ合うものを感じたものです。

士会をはじめとした多くの関係団体の方々のご協力やご支援に負うところが大きいことを改めて実感している次第です。これは正に、鶴城の生徒諸君が先生

世界で、国民目線に立ち、社会の変化や要請に応えているか絶えず検証しながら、同時に「城山」への思いを大切に、頑張つていこうと思っています。:

この遠征で新たに目標・課題が

見つかりました。その課題であ

れ」の精神で。

この遠征で新たに目標・課題が

見つかりました。その課題であ

れ」の精神で。

健児の前途

岩佐礼子 (高29回生)

東京大学大学院新領域創成科学研究科 客員共同研究员



母校に寄せて

～鶴城高校での米国留学の思い出から～

昨年8月に職場がある千葉県柏市から佐伯の自宅に戻り、博士論文を書籍化するため原稿の執筆に専念し、やっとのことで今年3月に『地域力の再発見』という本を藤原書店から出版できた。この本の記事が8月末に大分合同新聞に載ったことで、あちこちから講演の依頼をされるようになった。

講演では、本の内容より自分の人生を語ることが多いが、そうなると鶴城高校時代の思い出抜きには語れない。結果、鶴城について振り返ることも多くなった。当時鶴城は熱心な教員が多く、とにかく試験や補習授業を受けてばかりいた。楽しかった中学生活から受験勉強中心の高校生活という環境の激変についていけず、成績も中まで落ち、転校すら考えたこともあった。そもそも理数系は苦手で、小さい時から外国への憧れを持ち、唯一好きだった科目は英語だった。そんなこんなで国際ロータリー財団の交換留学生募集の話に思わず飛びついてしまった。

運よく高校2年の夏（1975年）から米国ミシガン州の田舎町のグリーンヴィル高校へ一年間留学することができた。送り出す親は心配だったろうが、かわいい子に旅をさせる決断と支援をしてもらったことに今でも感謝している。米国留学は明らかに私の人生の転機となり、14年後に国連の仕事へと導いてくれた。米国では日本のような受験勉強をする必要がなく、スポーツやクラブ活動で青春を謳歌する高校生をうらやましく思った。翌年の夏には世界中から米国留学してきた高校生達と共にアメリカ一周のバス旅行をし、一生忘れられない思い出となった。

狭い鶴城高校の世界から飛び出し広い世界を見てきたことで、日本に戻ってからは受験勉強への不満もふっきれた。一方、私の同級生たちは鶴城の歴史始まって以来のアメリカ人交換留学生との楽しい思い出をたくさん作っていた。今となってみれば、私の米国留学は出来の悪い生徒だった私から鶴城への唯一の恩返しだったのかもしれない。

高速道路も大分・宮崎間が直結しましたが、片側一車線で車がスムーズに流れないと事故の際や救急車両の運行に支障をきたしています。またあたり運転による追突事故もあります。

私達東九州に住む人達は地方創生の為にもこれらの要望をもつと声を大にしたらいいのではないでしょうか。

九州を例に取りますと西九州に比べ私達の住む東九州は格段の遅れがあります。

最近「一国が地方創生」と言つてゐるのをよく耳にします。地方創生にはまず交通体系の整備が重要だと思います。

会費納入者の皆さん

以上27年10月現在 〔自不同

